

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270201270		
法人名	医療法人鶴豊会		
事業所名	グループホームさくらばやし		
所在地	弘前市桜林町3-1		
自己評価作成日	令和2年8月20日	評価結果市町村受理日	令和3年2月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20-30		
訪問調査日	令和2年10月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

市街地の閑静な住宅街にあり、近隣に病院や公共施設の多い場所に位置している。コンピュータシステムを導入しており、入居者の情報を管理し、職員間で情報共有を図っている。また、母体法人で介護老人保健施設を運営しており、入居者やご家族、地域住民の相談に対応することができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

系列法人の介護老人保健施設や介護療養型医療施設と連携しており、利用者の状態変化に伴う対応や災害時対応等の協力体制が整っている。ホームは市中心部の閑静な住宅地に立地しており、近隣には大学や高校、幼稚園、美容院、商店等の様々な社会資源がある。地域に根差したグループホームとして認識されており、様々な交流が活発に行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を基にした介護計画の作成を心掛け、理念の共有と実践に努めている。職員採用時は、理念について説明し、日々のサービスに繋げている。	全職員が地域密着型サービスの役割を反映させた理念に基づいて、日々のサービスに反映している。内容を共有し、地域との繋がりを意識しながら、取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議で見学がいつでも可能であることや避難訓練への参加を呼び掛けている。また、近隣の幼稚園との交流や町内の理美容室を利用して交流に繋げている。	ホーム前のねぶた運行や近隣住民と協力し合いながら雪かきを行うなど、日常的に交流が行われている。コロナ禍となってからも、感染予防対策を講じながら、交流が保てるよう働きかけを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近くの介護福祉士養成学校の実習を受け入れている。今年度は新型コロナウイルス感染防止のため、中止としている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のお知らせは、家族通信で周知している。内部評価と外部評価は会議で報告し、参加者から意見を出してもらい、日々のサービスに繋げている。今年度は新型コロナウイルス感染防止のため、中止としている。	今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、各メンバーへ利用者の生活状況や行事報告等を郵送し、意見や提案を確認して、ホームのサービス向上に活かせるよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者には、運営推進会議の報告と法人の広報誌を提供し、ホームの状況を伝えている。	市役所や地域包括支援センターと情報交換を行っている。介護保険や制度上の問題や課題解決に向けて相談する等の連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修で、どのような事が身体拘束になるのか理解を深め、身体拘束に繋がることが無いように職員間で確認している。また、普段のコミュニケーションからストレスや外出傾向を察知し、余暇活動や外出支援などで対応している。	身体拘束に関するマニュアルが整備されており、定期的に内部研修や身体拘束適正化委員会を開催しており、職員は身体拘束の内容や弊害等について理解を深めている。高齢者が多い地区であり、利用者の無断離設に備えて、町会長を中心に日頃から協力が得られるよう体制が整えられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	内部研修で虐待について確認をしている。また、虐待につながるようなことがあった場合は、管理者への報告を基本とし、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で権利擁護について学んでいる。また、必要時に法人の相談員や後見人の協力を得て理解と活用ができるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には、理念や運営規程を丁寧に説明し、理解していただけるようにしている。退去時は、退去先に情報提供するとともに、ご家族との連絡を継続して行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者には、生活の中で積極的にコミュニケーションを図るように努め、話しやすい雰囲気作りをしている。また、ご家族には面会時や電話での状況報告の際に気がかりなこと等がないか確認をしている。	入居時に重要事項説明書で説明するほか、ホーム内に掲示し、出された意見や苦情等は、ミーティングや職員会議で検討し、速やかな対応を行う体制となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議録は法人へ提出し、内容を確認してもらっている。法人全体の会議には、管理者が出席して内容を職員に報告して、意見を求め、次回の会議に活かすようにしている。	職員からの意見や提案は、毎朝のミーティングや職員会議で話し合い、会議録にして法人へ提出している。提出された意見等は法人全体会議で検討し、決定事項は、毎朝のミーティングで周知し、全職員で共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回職務能力評価を実施し、職員のやりがいにつなげるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は年間計画のもとに行っている。外部研修は、必要な研修に参加できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の介護老人保健施設や介護支援事業所と連携し、サービスの向上に努めている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時に入居者とご家族の話を聴くことに徹し、不安や要望を理解して不安の軽減に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	新規入居時には、入居前の状況を再確認している。入居後もご家族に御協力いただくことを説明し、関係作りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族との面談時には、入居の他にも利用できるサービスがないか情報収集を行い、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者ができることはやっていたいでいる。日々の出来事を話しながら、一緒に生活している同士の関係作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス感染防止のため、面会を制限している。普段の生活の様子はお便りで報告している。また、必要に応じて電話で状況を報告するほか、受診等の協力を依頼し、ともに支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者が好きなことや馴染みとしていることをご家族から聞き、ドライブや散歩、買い物等の支援に活かしている。なお、外出支援は新型コロナウイルス感染防止のため、現在は中止している。	入居相談時のフェイスシートや家族からの情報により、これまで関わってきた人や馴染みの場所等を把握している。知人との電話の取り次ぎや手紙、外出援助等、今までの関係や交流が継続できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の際の席やテレビを観るときの場所等に配慮し、孤立やトラブルがないようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じてご家族と連絡を取り、支援や再利用に繋げている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族や面会に来た方から情報収集を行い、入居者の思いの把握に努めている。また、生活の中で入居者からも希望を把握できるようにコミュニケーションを図っている。	利用者がホームでの活動に対して興味を示しているかどうか、普段から注意深く観察し、思いや意向を把握している。また、家族からの情報収集を行い、記録に残して職員間で情報共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活の様子を入居者とご家族から聞き取りをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの毎日の生活の流れを職員で共有し、現状と変化の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1回の定期評価で介護計画を見直している。また、ご家族にも内容の説明を行っている。問題が発生した際は、ミーティングを実施し、状況に合わせた対応に変更し、介護計画へ反映している。	利用者及び家族の意向を確認し、職員の意見や気づきを基に検討し、本人本位の介護計画を作成している。定期的に評価を行っているほか、家族の意向変化や本人の心身状態に大きな変化があった場合は、再アセスメントを行い、介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの内容を記録している。変化があった際は、特に細かく記載し、情報共有している。また、申し送りでは、不足なことや気づきを職員間で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助や外出支援等、ご家族と連絡を取り合いながら実施している。新型コロナウイルス感染防止のため、定期受診は医療機関と連絡を取りながら調整している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全で豊かな生活ができるように、ご家族の協力をいただき、近隣の理美容室やスーパーマーケット等の地域資源を活用している。新型コロナウイルス感染防止のため、外出を自粛している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入居者とご家族の意向で決定している。受診介助時は情報提供をし、医療機関との信頼関係の構築に努めている。	入居前アセスメントで受療状況を把握しており、今までの医療機関を受診継続できるように支援している。希望により協力医療機関による訪問診療の利用が可能である。受診結果は、電話で報告しており、情報共有が図られている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常があった際は、協力医療機関やかかりつけ医に連絡し、指示をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も情報交換しながら連携に努め、退院後の対応の連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者やご家族の気持ちを確認し、ホームができることを職員間で話し合っている。医療機関には情報を提供しながら関係作りを行っている。	看取りに関する指針が整備されており、ホームとしての方針を明確にしている。入居時に、利用者及び家族へ具体的支援内容や緊急時の対応方法を説明している。重度化した場合の方向性について、随時家族へ確認している。看取りや緊急時の対応等を職員に説明し、全職員で共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故・緊急マニュアルを常に閲覧できる場所に置き、定期的を確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中と夜間を想定した避難誘導訓練を実施している。また、法人との連携体制も構築している。ご家族や地域の方の避難誘導訓練への参加は、新型コロナウイルス感染防止により中止している。	具体的な避難誘導マニュアルが整備されており、定期的に避難訓練を行っている。災害時の対応について、町内会長や近隣住民の協力を働きかけている。毎冬雪かきを行い、避難経路を確保している。災害時に備え、飲料水や保存食料、防寒器具を備蓄している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活歴を踏まえ、一人ひとりにあった言葉掛けや対応に努めている。	利用者への声掛けや対応を、連絡ノートを用いて確認しており、改善に向けて取り組んでいる。個人情報の取り扱いについては、採用時に説明をして、普段から留意するように心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションや表情から思いを読み取っている。自己決定を促しながら、自分で行動できる喜びと達成感のある暮らしが実現できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先ではなく、入居者のペースに合わせることを基本としている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近隣の美容室へ外出したり、ご家族の協力を得て馴染みの美容室へ外出している。また、季節にあった衣類を入居者の好みに合わせて準備している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に集中できるような環境に配慮し、好き嫌いを把握して食事を提供している。協力できる入居者には、食事の準備や後片付けの手伝いをお願いしている。	調理は外部委託しており、利用者の嗜好や禁忌を確認しながら提供している。利用者と職員一緒に調理し、楽しみながら食事が摂れるように、月1回「調理の日」という行事を開催している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お粥やきざみ食、ミキサー食等、一人ひとりの状態に合わせた食事を提供している。水分については、お茶やコーヒー、紅茶等、好みに合わせた摂取を促している。食事量が不足している入居者には、栄養補助食品を活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者の状態に合わせて、セッティングや見守り、歯磨き介助で口腔内の保清に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄表を作成し、排泄パターンを把握している。自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表により排泄パターンを把握し、事前のトイレ誘導を行っている。常日頃から利用者の排泄状況に注意を払いながら、利用者の状態に応じた排泄用品使用の検討を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの好みに合わせながら水分摂取を促している。また、かかりつけ医と相談しながら下剤を使用する等、便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	入浴日は決まっているが、一人ひとりに合わせて入浴の順番や回数等に配慮している。また、入浴を楽しめるような声掛けや介助を心掛けている。	利用者の入浴習慣や意向を取り入れている。羞恥心や負担感を考慮して、同性介助やシャワー浴等を行い、安全に入浴できるよう支援している。入浴拒否時には、時間を置いたり、職員を替える等の工夫をして対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを把握し、その日の体調や気分に合わせて休息を促している。夜間に眠れるように、日中帯の余暇活動等で離床を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの病歴と内服薬を把握し、状態に合わせた服薬支援を行っている。内服薬の変更時は、特に状態の変化に注意して観察している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の生活歴や能力を把握して、生活の中での役割や興味をもてるものを見つけて生活できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望を把握し、計画を立てながら外出支援を行っている。また、ご家族に情報提供をして、外出時の協力をお願いしている。	その日の気分や体調に合わせて、近隣公園の散歩やドライブ、買い物等、日常的に外出の機会を作っている。また、車いす専用車を使用する等、身体的負担に配慮した外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理能力を把握し、外出支援時にお金を使えるように援助している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	2階ユニットに公衆電話を設置し、電話をする支援を行っている。また、手紙を出す支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度と湿度を毎日2回チェックしている。季節を感じられる花や飾りつけを行い、環境整備をしている。また、居室には馴染みの物や好みの物を置いて、心地よく過ごせるように支援している。	全館床暖房とエアコンで適温管理されている。食堂と娯楽室が一体となっており、テーブルやベンチ等が配置されている。壁には季節感のある装飾、ベランダには花を飾る等、家庭的な居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話コーナーや食堂は、気の合う入居者同士が近くに座れるように椅子の配置に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力を得ながら、使い慣れた寝具類や家具、写真等を持参してもらい、心地良く過ごせる環境作りを行っている。	自宅で使用していた茶碗や箸等、利用者の愛用品の持ち込みがあり、より家庭的な雰囲気の中で生活が保たれるように配慮している。利用者の意向を確認して、写真を飾る等、安心して穏やかに過ごせる居室作りをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	廊下やトイレに手すりを設置している。また、トイレはセンサーで反応する照明と蛇口となっている。できるだけ自立した生活ができるように配慮している。		